

シャトルに集中V目指せ

西山公園体育館(長岡京市長法寺)で夏に開かれるバドミントンの団体戦「第32回若葉カップ全国小学生大会」に向け、長岡京市のクラブチームに所属する児童が同体育館で練習に励んでいる。今年は立命館大バドミントン部の選手が指導に加わっており、子どもたちは上位進出を目指して意気込んでいる。

長岡京、7月バドミントン全国小学生大会

小学生の強化を狙い、市体育協同大学に指導を依頼、監督が西乙訓高出身という縁もあり、学生の派遣が実現した。体育館には、市内でバドミントンを行っている三つの少年団から



立命館大バドミントン部選手(右)の指導で練習する児童ら—長岡京市長法寺・西山公園体育館

学生指導 児童練習励む

若葉カップでメンバー入りを目指す4～6年の男女約30人が週に2度集まり、2時間半ほどの強化練習に取り組んでいる。学生は毎回4人ほどが参加。「ミスをしたら試合では勝てないよ。シャトルの動きに集中しよう」などとアドバイスしながら子どもたちとシャトルを打ち合うラリーや試合形式の練習を行っている。

主将の勢瀬拓也さん(21)は「子どもたちは純粋にバドミントンを楽しんでいる。大会では小学生らしく元気よくプレーしてほしい」と期待する。学生の指導に、笠谷沙織さん(11)＝長法寺小6年＝は「優しく声を掛けてくれてやりやすい」と話し、柳杏優さん(9)＝嵯峨野小4年＝は「大学生が来てくれて練習メニューが増えてうれしい」と笑顔を見せた。

大会には開催地枠があるため、長岡京市からは予選免除で出場でき、昨年はベスト8進出を果たした。衣川直生君(11)＝第2向陽小6年＝は「練習の成果を生かし、一丸となって入賞を目指す」と力を込める。

今年の大会は7月29日～8月1日に開催。各地の予選を勝ち抜いた男女それぞれ48チームが長岡京市に集い、頂点を目指す。

(川越弘太郎)